

平成19年度中間評価結果（平成19年12月）

〔研究開発課題名〕 生体ポリウムデータに基づくネットワーク型VR手術手技教育訓練システム

〔委託機関名〕 三菱プレジジョン株式会社

項目	評価 ランク	所 見	再評価 ランク	再 所 見
総合 所見	A	<p>（技術） 医療技術が高度化するにつれ、本研究で実現を目指す手術訓練システムの重要性は今後益々増すことが予想され、本研究課題は社会的要請に良く合致した内容となっている。また、具体的な数値目標として設定された中間目標を計画通り達成している点においても評価される。さらに、前回中間評価での指摘を受けて、単一臓器だけでなく異なる臓器が混在する状況でのシミュレーションを実現していることも評価される。しかしながら、手術で行う作業の一部しか機能として実現されていない点、切除作業に伴う形状変形の精度が粗い点、ビジュアルなリアリティで競合製品に劣っている点など、システムの完成度がミッションリハーサル全体を扱ったシミュレーションを通じて有効性を評価できるレベルに達していない。今後は早急にシステムの完成度を上げるとともに、詳細度のレベルを複数設定できるようにすることで、シミュレーション全体としての効果についても考えていくことが強く望まれる。</p>	-	<p>（技術）</p>
		<p>（事業化） 専門医の教育や医療安全、医療事故の解析、新医療技術の研究開発、医療安全情報の発信などを目的として「 」が予定されている「 」へ導入に関しては、公開入札となるものと思われるのでその動向フォローは必須である。 専門医教育・訓練のための製品1：「教育・訓練用手術シミュレーション装置（専門医教育）」の事業化では、同センタへの100%導入が可能になるような対応を行うとともに、100%導入とならない場合のリスク対策を盛り込んだ事業化見直し計画を適切な時期に立案する必要がある。 製品1とネットワーク接続され、学生や研修医の教育・訓練のための「教育・訓練用手術シミュレーション装置（学生・研修医教育）」、そして、患者固有の手術シミュレーションを実現する「術前計画用手術シミュレーション装置」の3製品についての事業化計画は、妥当と考える。 「教育・訓練用手術シミュレーション装置（専門医教育）」が「医療安全・訓練センタ」へ導入されれば、同装置とネットワーク接続される「教育・訓練用手術シミュレーション装置（学生・研修医教育）」に対しても販売促進効果があり、一定の売上が期待される。</p>		<p>（事業化）</p>

（注）総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。